

令和6年度前期 宗谷支部活動報告

〔研究主題〕

ひと、モノ、じぶんをつなぐ

～協働的な活動を通して、自ら学びを深める体育授業の実践～

1 宗谷支部 研究の概要

学びは、「他者・教材・自己」とそれぞれ向き合い、関わり合いながら行われる。「対話」というと、他者との関わりばかりが焦点化されるが、教材（運動課題、用具、自分の動き）との対話も体育授業の中には豊富に存在している。そういった中で、「できない自分」「この種目が好きな自分」「仲間のことが気になる自分」など、自己との対話も行われる。このように「他者・教材・自己」、つまり「ひと、モノ、じぶん」の相互のつながりを意識し、より多く「ひと、モノ、じぶん」とつながることができる体育授業を目指す。

そこで重点として、「協働的な学び」「探究できる課題設定」を2本柱として研究を推進していく。

2 今年度の研究の方針

(1) 宗谷管内における体育研究の課題

広域な宗谷管内において、多くの学校が複式学級を編成する小規模校となっている。そのため、体育研究を志す教員が複数在籍している学校は非常に少なく、学び合う機会がもつことができない。また、初任段階の教員が1人で全学年の体育授業を担当している学校もあり、困った時に誰に質問をすれば良いかと迷ってしまうことも少なくない。さらに、管内の公開研究会において、体育の授業が公開されない場合もあり、学びの機会が少なくなっている。

(2) 前期取組の重点

① ネットワークづくり（7月26日宗谷学校体育研究会 総会 実施）

毎年、市町村ごとの体育研究会が発足され定期的に研究会を開催できている。このことから、市町村の学びをつなげる働きとして本研究会が活動できれば活発化すると考えた。そのため、各市町村研究会代表者との連絡調整を増やすこと、各市町村からの発信を増やすことに重点を置き、学びが市町村を越えて管内全域に広がるような働きかけを行った。

② 研究成果の蓄積

公開研究会での指導案、授業実践に関わる資料（学習カード、授業で使用したスライド等）を、広報部が中心となり収集し、共有していく。

3 今後に向けて

宗谷管内で勤務する先生方にとって、どのような組織の在り方が助けとなるのだろうか。もちろん研究の推進は続けつつ、組織としての当たり前だけではなく、宗谷管内の先生方をつなげる働きを目指し、今後も活動していきたい。

